

2016年度特定共同研究申請書

1.応募領域（丸を付けてください） 古代史料領域 中世史料領域 近世史料領域 <u>海外史料領域</u> 複合史料領域															
2.申請課題名 ヴァチカン図書館所蔵マリオ・マレガ氏蒐集史料の総合的研究															
3 新規・継続の別 新規															
4.申請者 特殊史料部門・教授・松井洋子															
5.所内共同研究者 <table border="0" style="width:100%;"> <tr> <td>近世史料部門・准教授</td> <td>松澤克行</td> <td>近世史料部門・教授</td> <td>佐藤孝之</td> </tr> <tr> <td>近世史料部門・准教授</td> <td>杉森玲子</td> <td>特殊史料部門・准教授</td> <td>松方冬子</td> </tr> <tr> <td>特殊史料部門・助教</td> <td>岡美穂子</td> <td>特殊史料部門・助教</td> <td>岡本 真</td> </tr> </table>				近世史料部門・准教授	松澤克行	近世史料部門・教授	佐藤孝之	近世史料部門・准教授	杉森玲子	特殊史料部門・准教授	松方冬子	特殊史料部門・助教	岡美穂子	特殊史料部門・助教	岡本 真
近世史料部門・准教授	松澤克行	近世史料部門・教授	佐藤孝之												
近世史料部門・准教授	杉森玲子	特殊史料部門・准教授	松方冬子												
特殊史料部門・助教	岡美穂子	特殊史料部門・助教	岡本 真												
6.希望する研究期間 2016年度～2018年度（3年間）															
7.課題の概要(400字程度)（この項は広報等に利用・掲載することがあります） ヴァチカン図書館には、戦前・戦後を通じて日本に滞在したマリオ・マレガ氏（1902－1978、イタリア人のサレジオ会所属司祭）が蒐集した、豊後地方のキリシタン関係史料(以下マレガ文書)約1万点余りが、未整理のまま所蔵されていた。2013年度に、人間文化研究機構（主幹：国文学研究資料館アーカイブズ系）が日本側代表機関となり、ヴァチカン図書館と協力して、同文書群の整理・撮影・目録化プロジェクト（以下整理プロジェクト）が開始され、史料編纂所も日本側連携機関の一つとして参画している。本共同研究では、整理プロジェクトに関わる研究者、地元大分の研究者、藩政史・キリシタン史等の専門家が共同し、マレガ氏自身により刊行された『豊後切支丹史料』（正・続）所収史料の再検討を足掛かりに、同氏の蒐集活動、蒐集史料と現地残存史料との関係等に着目しつつ、史料群全体についての総合的研究を進める。															
8.研究の目的(400字程度) 海外にある個人蒐集の大規模史料群であるマレガ文書は、臼杵藩の藩政史料が大部分を占める日本の近世史料でありながら、外国人司祭による蒐集文書であり、蒐集者による独自の分類の痕跡や欧文によるメモを含むなどの特殊性を持つ。本課題は、整理プロジェクトと連携しつつ、①蒐集文書がかつて存在していた豊後地域における藩政史料、地方史料の全体像のなかでのその位置づけを探ること、②蒐集史料が示す豊後地域における禁教後のキリシタン統制の維持運営のあり方を検討すること、③蒐集史料にあらわれた藩組織、村落やその住民に関する広範な情報を、現地に残存する史料・情報と関係付けつつ理解すること、④マレガ氏の蒐集・整理・研究活動を復元的に考察すること、⑤それらの作業を通して、史料群全体について総合的理解を深め、研究資源としての活用資する情報を蓄積することを目的とする。こうした研究によって、長期にわたる整理プロジェクトを史料学的研究の側面から支える役割をも果たしていきたい。															

9. 共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400 字程度)

一地方に関わる大量のキリシタン関係史料の集積は類例がなく、マレガ文書の整理プロジェクトは貴重な機会となる。欧文史料を中心としたキリシタン史研究及び近世初期九州地方の藩政史料の研究に蓄積を持つ史料編纂所の研究者が中心となり、整理プロジェクトに関わる研究者、地元大分の研究者、イタリア語を解する研究者、キリシタン史の専門家、等が集まることができれば、相互の知識情報を交換し、史料学的研究を深めることが可能となる。必要な情報を整理し共有化することは、目録化作業の効率化・緻密化にも役立ち、整理プロジェクトの進展にも貢献できる。禁教後のキリシタンに関する研究はもとより、臼杵藩・岡藩等の藩政、長崎奉行と九州諸大名との関係等、幕政史・藩政史から豊後地方史まで、近世史研究の様々な分野の研究成果が期待され、海外史料分野を持つ日本史の研究所である史料編纂所にふさわしい共同研究としての意義を持つ。

10. 研究の実施計画

- * 3 年の研究期間に、共同研究者は分担して、下記の調査・検討を行なう。
 - ・マレガ氏が刊行した『豊後切支丹史料』正・続に掲載された史料の原本画像による校訂（前課題において着手）を完成させ、関連史料情報を補ったうえ報告書として刊行し、史料集として学界・地域への還元を図る。
 - ・整理プロジェクトの概要調査の最終年とされる 2016 年度は、共同研究者の一部が引き続きヴァチカンにおける概要調査に参加する。
 - ・整理プロジェクトと連携し、目録の書式、記載内容等について検討を行ない、目録記述の蓄積・校正等を通じて目録作成の進展に協力する。
 - ・マレガ氏の残したメモ・原稿等を合わせて検討し、蒐集対象・出版計画等、その蒐集・整理・研究活動を復元的に検討する。
 - ・現地に残る臼杵藩関係史料との関連について検討するとともに、残存状況の把握が不十分な地方史料についても情報収集を進める。
- * 共同研究者による研究会を開催するとともに、整理プロジェクトと連携してシンポジウム、大分における報告会等を開催し、成果を公開する。

11. 研究成果の公開計画

マレガ氏蒐集文書の目録・画像は、ヴァチカン図書館との合意のもとに整理プロジェクトとして公開する形となるが、『豊後切支丹史料』の校訂・内容分析及び作成したリスト類等については本課題の報告書として刊行する。また、ヴァチカン側にも情報が共有できるよう、可能な部分については英語での報告も視野に入れたい。共同研究員の関心に従った研究を進め、発表するとともに、史料紹介、報告会等によって豊後地方を中心とする近世史料研究に有用な情報を提供していきたい。

12. 共同研究員にもとめる役割

- ・整理プロジェクトと連動したヴァチカン所蔵史料の調査・目録作成・研究
- ・豊後地域史、キリシタン史などそれぞれの研究の視点の立場からの情報提供、調査分析への参加
- ・研究会への参加